

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791800032		
法人名	有限会社 くばの里		
事業所名	認知症対応型グループホーム くばの里ハウス		
所在地	沖縄県国頭郡金武町字金武4196-147		
自己評価作成日	平成30年1月14日	評価結果市町村受理日	平成30年 3月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4791800032-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4791800032-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	平成 30年 1月 30 日(火)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

金武町の町木が名前の由来となっており、同法人のデイサービスやグループホームなどと協力しあい、地域に愛され、根差した事業所を目指し、家庭的な雰囲気を入居者が明るく楽しく過ごせるように支援していきます。住み慣れた地域、環境で近隣の方に事業所への理解していただけるように行事などへの参加の声かけを行い、交流を図っています。若い職員が、入居者一人一人に柔軟に対応した支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は「皆が笑顔で楽しい生活が送れるように」等、理念に掲げ、日々の生活の中で利用者との会話や笑顔を大切に支援している。事業所駐車場や法人駐車場を夜間や冠婚葬祭等に地域の方の駐車場として担っている。全国で定員30名の海外(北米)への民間社会福祉施設職員研修に、事業所職員が参加し、海外の状況を知る、学びはもとより、他県職員との情報交換、交流した事等を他職員に報告、伝える事で働く意欲や質の向上に繋がっている。朝食は、時短食品だが昼、夜の2食は事業所で調理し職員も一緒に摂っている。ホールに畳間のスペースがあり、利用者の馴染みの感触を感じることができるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意見を取り入れたわかりやすい表現での理念を毎朝の申し送り時に唱和している	理念は、職員も一緒に分かりやすい表現で作成し、上から目線ではなくお手伝いさせてもらっているとの考え方で共有し実践している。生活リズムを調えながら利用者の意思を大切に会話を重視し、一人ひとりが楽しい生活を送れるよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩時などに近所の方と会話をしたり、夜間や冠婚葬祭時に駐車場を提供したりしている	事業所周辺の散歩時に挨拶を交わしたり、利用者出身区の行事に参加して交流している。保育園児の訪問や事業所の行事で交流している。駐車場の開放や台風時には1人暮らしの高齢者の避難場所となるよう体制を整えている。就労支援で関わった方が、定期的に新聞紙やごみ箱を作ったので「取りに来て」と連絡がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの保育園との交流や、施設でのイベント行事に近所の方たちの参加をお願いしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月に開催し、地域の方、行政機関、利用者とその家族の参加を促し、多方面からの意見をいただいている	推進会議は、年6回開催し事業所の状況等も報告している。事故、ヒヤリハットの状況は報告されているが検討した記録は確認出来なかった。委員からも、同一利用者の転倒が続いているので「本人にあった車椅子なのか相談しては」の意見がある。運営推進会議録、外部評価結果は職員に口頭で伝えているが、家族に公開はしていない。	職員間で、事故、ヒヤリハットの検討した事を記述し、事故を防ぐ工夫に繋げてほしい。会議録、外部評価結果も職員、家族に公開できる工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や 行事などで、市町村担当の方に来所していただいたり、地域ケア会議に参加するなどし、情報交換等行っている	町担当者とは、推進会議や町ケア会議で情報交換している。民間社会福祉施設職員研修の情報提供があり、職員が海外(北米)の研修に参加している。8月より2床空きの状況で、町出身の県外在住の方が入所したいとの要望があり、手続き等の相談や入所に向けて親族も一緒に窓口を訪問している。	

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜、眠れない利用者の方には記録室やソファで職員と共に過ごしてもらったり、日中、帰宅要求強い方がいた場合、散歩やドライブに行ったり、デイサービスへ行くなどして、対応している	前年度、夜間1回のみ、4点柵をした事で身体拘束について考える機会となり、管理者、職員は身体拘束をしないケアについて意識が高くなっている。行動の制限につながる「チョットまって」等の声かけしないよう職員間で注意、努力している。リスクについて契約時に家族に説明している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	研修などへの参加や、どんな行為が虐待に当たるのか、虐待について職員同士の指摘や、話し合いなど行っている	虐待防止の研修の参加している。、自分自身の行動を振り返り、行動の制限につながる声かけも虐待ではないか等、職員間で話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症のひどい方や、家族が管理しているため、それらを必要とする機会や、前例がなく勉強不足である。また、勉強不足のため、どういったケースで必要なのかも理解できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込時や契約時に本人や家族に説明を行い、署名捺印をもらっている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付書と回収箱を置いてはあるが、面会時や病院受診時に直接管理者や職員に言うことが多い。利用者からの要望は日々の支援の中で聞き、柔軟に対応するようにしている	家族からは、面会時や病院受診時に声かけて聴いている。職員の個性もあり「愛想が悪い」との声には、管理者が様子観察し職員が話しかけやすいよう、さりげなくサポートし、少しずつ良い関係になっている。利用者からは生活の中で聴き「ドライブに行きたい」「出かけたたい」などの声がある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事前に職員に提案事項がないかを確認して、毎月一回職員会議を開き、意見をもとに検討している	月1回のミーティングや日々の業務の中で職員の意見を聞いている。休憩時間についての意見には、休憩のとり方を明確にし「ここまで終わってから」ではなく、シフト勤務で時間を設定し、途中の仕事は引継ぎして休憩する事を共有している。ON・OFFを大切にし利用者の様子がみえない処で休憩する。休憩室も確保している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回その場を設けている。それ以外にも代表者が頻繁に施設を訪れ、職員とコミュニケーションをとっている。職員を増員したいが、なかなか応募が無い。	年1回代表者との面談、管理者は日々の業務の中で聴いたり声かけして把握に努めている。休みの希望は出来るだけ受け入れている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は頻繁に施設を訪れ、利用者はもちろん、職員にも目を配り、アドバイスをしたり、管理者に報告などし改善に向けてアドバイスをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者より、「ぜひ行きなさい」と言われるが、現場職員の人数がギリギリでゆとりがない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人様や家族の方に話を聞き、情報をもらいながら本人様の様子を把握し、事前にホームの見学をしてもらい、安心して入居出来る様に支援している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と面談を行い、グループホームの事を説明したり、家族からの要望や困りごとを丁寧に聴き、信頼関係が構築できるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望、困っていることを伺い、本人、家族の出来る事、出来ないことを把握し、サービスに繋がれるように支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かし、調理の下ごしらえ(もやしのひげ取りなど)洗濯たたみ等を一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族の関係づくりのため、面会時などに情報交換を行っている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同敷地内のデイサービスやグループホームに行き、友人や親せきの方に会い交流している。お盆や正月、お祝い等で自宅に戻る際もリフト車を提供したり、自宅まで送迎し、家族や地域との関係が途切れない様支援している	地域社会との関係性は、通っていた教会に家族と一緒に通う、教会仲間が定期的に訪問したり、馴染みの医院を受診したり、家族、親族との関係が途切れないよう支援している。本人や家族、親族、知人から馴染みの人や場との関係を聞いて把握に努めている。	

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の座席を配慮したり、職員の声かけ等での明るい雰囲気作りに気を配っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者の家族が来所されたり、入院している利用者の見舞いに行き、状況確認をしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団にとらわれず、個人のペースに合わせた支援を心掛けている。	殆どの利用者が意思疎通が可能で、日々の生活の中での会話等で思いや意向の把握に努めている。一人世帯で生活していた利用者が多く「一緒に生活したい」の声が聞かれる。困難な場合は、表情等で利用者の思い等を推し図り、職員間で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話から読み取ったり、家族の方から情報収集したりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身状態の変化などで、本人の有する力などを申し送りなどで情報を共有し、支援している		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時や、入居者の状態変化があった時にはその都度話し合いを行っている。申し送り等で情報を共有し、対策検討を行い介護計画に反映している。	本人、家族の参加の基サービス担当者会議を開催し、アセスメントは更新時、モニタリングは3か月毎に実施している。介護計画は、1年毎の見直し、状態変化時の見直しも行われている。「教会に行く」「ここでの生活を楽しく」「自分で出来る事は自分で」など利用者、家族の意向が反映された個別計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や、介護日誌に記入し、勤務引継ぎ時の申し送りにて情報の共有をはかっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝の申し送り時に入居者の状況を報告し、必要な支援を行っている。病院受診や家族との外出の予定など。必要に応じ、家族とのランチ外出の送迎等		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや近隣の保育園児の訪問交流を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際同行し、主治医へ情報提供を行った。同行できない場合は、書面にして経過報告や状況報告を行い、適切な健康管理が行えるよう支援している。	かかりつけ医を家族対応で継続受診しているが、困難な場合は職員が対応している。受診前、管理者が主治医に利用者の最近様子を連絡したり、書面で情報提供している。受診後、家族より口頭で説明を受け職員と共有している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態を職場内の看護師や、往診時に情報提供を行い、指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時可能な限り同行し、情報提供を行い、入院中は入退院管理室や家族と密に連絡を取り合っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療連携や重度化した場合の事について確認してはいるが、体調変化時などにも連絡を入れ、家族に確認している。	契約時に重度化になった場合の説明を行い、状態変化時にも連絡し、その都度確認している。現在、入居者が元気なこともあり、重度化や終末期について、職員と話し合い、研修も行われていない。家族に救急時の希望の病院などの確認に留まっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応マニュアルなどを整備し、対応時の流れを見やすい場所に掲示している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼夜を想定した消防訓練や、金武町の防災訓練に参加し、避難訓練を実施している。	昼想定避難訓練を6月に行っているが夜間想定は確認出来なかった。金武町主催の、地震、津波避難訓練にも毎年参加している。法人と同じ日に避難訓練を実施し、事業所単位で時間差で訓練を行い、助けの声が聞こえた時点で避難に協力するルールとなっており、実際の避難時に役立つ訓練となっている。	2回目の訓練が3月に予定されているが、今年度内に夜間要諦の訓練実施に期待したい。

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉や接し方などによって自尊心を傷つけたり、排泄支援の時、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	各トイレの前にプライバシー保護マニュアルを張り出しプライバシーを守れるよう意識づけている。自尊心を傷つけないように本人が納得するまで話をするが、言いなりになるのではなく、体調や生活のリズムは整えるようにしている。言葉かけもきつくならない様、尊厳を守った話し方を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し説明を行いながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にこだわらず、個別支援が出来る様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや入浴の際の衣服は、本人に確認している。外出時は職員が寒暖をアドバイスし、本人の好みで装うよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望や嗜好を把握し、献立に活かせるようにしている。また、直接的な調理は難しが、味付けや、手順等を利用者から教わりながら作ったりしている。	限られた予算のなかで職員が工夫し昼食、夕食、おやつは事業所で手作りしている。おやつ作りには利用者も参加し、カーサー蒸しパンや誕生日のケーキも手作りしている。水分が摂りやすいよう、お茶ゼリーや黒糖ゼリーで工夫している。職員も同一食事を一緒に摂り、早く済んだら交代で介助する職員の協力体制が整っている。	

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立をもとに入居者の好みやイベントに合わせて調理している。摂取状況を把握し、摂取量の少ない入居者には補食を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後、義歯は利用者本人が洗浄後、磨き残し等を職員が洗浄する。義歯の無い方にも口腔ケアを行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で排泄パターンを確認し、トイレを促すことにより、布パンツ対応やパットの使用軽減に繋げている。	日中は布パンツやリハビリパンツで過ごしている。トイレで排泄できるようチェックリストを活用し、パターンを把握、声掛け支援している。便秘対策として水分補給やマッサージ、お腹にガスのたまりやすい方に、ハッカ油の温シップで効果があった。排泄時の服薬タイミングも表にして見やすくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を確認し、水分や食事に対応するようにしている。水分量の少ない方には黒糖ゼリーを用意し、水分補給をしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日を決めているが、一人一人の希望に合わせて支援している。	入浴は週3回を基本とし、入りたいとの要望があればいつでも入れるようにしている。入浴拒否の方には無理強いせず、対応している。浴室が広いためお湯をためて浴室を温めるなど温度差がないよう工夫している。脱衣所には冷暖房完備し、特注の大きい腰かけに滑り止めを手作りし、ゆっくり整容出来るようにしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息時や就寝時間を特に定めず、テレビを見たり、雑談したり、一人一人に応じている。安眠出来る様に温室の調整をしている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握しやすいよう、薬の近くに服薬情報を綴ったり、薬の変更があった時には記録に書き、申し送りにて報告している。	病院からの服薬情報はまとめて綴っている。管理者が薬をセットし事業所で準備した朝、昼、夜、日にち、名前が書かれたビニールに薬をセットし、朝の薬は夜勤がチェック、飲み残し、忘れが分かるような仕組みになっている。薬の変更があった場合は服薬情報をコピーして、口頭で聞いた順番を書き写して共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地元の小学校の校歌や童謡を歌ったり、軽作業(洗濯たたみ)、散歩、ドライブ等で気分転換になるよう支援している。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩やドライブ、隣接するデイサービスやグループホームの友人や親せきとの交流、家族との外出などの支援を行っている。	隣接するデイサービスまでの散歩を日課とする方や家族と一緒に教会に通う方もいる。月1回、家族とランチに出かける方は車いすの為、職員も一緒に出掛けている。月一回のドライブで初詣や、桜祭り、伊芸のコスモス畑、ショッピングモールにも出かけ気分転換、五感刺激の機会としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理するのは難しく、家族に連絡し、外出する時などに持ってきてもらい、お金を所持し使えるようにしたり、施設で立て替えし、使えるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りが出来る人はいないが、電話をかけたり、ご家族や友人からかかってきた時は、随時話が出来る様に支援している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のイベントに合わせた飾りなどし、湿度計、温度計を置き、空調などの調整を行い、採光、テレビの音量調節にも配慮している。	リビングに畳の間もあり、ソファや食卓、お気に入りの場所でくつろげる。ソファに利用者の編んだカバーがかけられ、職員は編み方を教わったり会話が弾んでいる。職員と利用者で作った千羽鶴も飾られている。時間を気にする人の為どこにいても時間が分かるよう時計がかかっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂、玄関などにソファや椅子などを設置し、入居者が思い思いの場所で過ごせるようにしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に説明し、自宅のように過ごせるよう、使い慣れたものや家族の写真を居室に置き、ゆっくり過ごせるようにしている。	居室には馴染みの寝具などを持ち込み、物を置きたがらない方はシンプルにし、壁に飾ってある写真や作品は、利用者に合わせ高さを変えるなど工夫している。冬は暖房をつける為、洗面器にお湯を張りハッカ油を数滴たらし乾燥予防している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを配置し、入居者が移動しやすく、立ち上がり運動なども出来る様にしている。トイレや浴室など車椅子や歩行器でも出入りできるようにしている。		